

美術科教育学会通信 No.96 2017.10.20

□巻頭言 □第40回美術科教育学会滋賀大会第二次案内 □理事会報告
□第35回 InSEA（国際美術教育学会）世界大会（大邱大会）報告 □乳・幼児造形研究部会案内 □本部事務局より

巻頭言

第8期事務局での1年半

副代表理事 相田隆司（東京学芸大学）

今月で第8期の美術科教育学会事務局がスタートして1年と半年余りが経ったこととなります。本事務局の発足に先立って宇田秀土副代表理事から業務の詳細につきご連絡をいただいておりますし、発足時には引継ぎ会議も行っていただきましたので業務内容を早くから把握し助走を開始することが出来ました。発足から昨年9月の第1回理事会までの約半年間は前任の方々の仕事の記録を参照しながら見よう見まねで何とか乗り越えたというのが偽らざるところです。そして先日9月9日に、今年度の第1回理事会がありましたので、当方はあれよあれよという間に事務局の年間業務1年1サイクルを経験してしまっただけになりました。水島尚喜代表理事を筆頭に、経験豊富な上山浩理事、大泉義一理事、そして西村德行理事、笠原広一本部事務局運営委員によって隙間なく事務局の布陣が形成されていることも新参者の当方が業務に関わってくることが出来た理由の一つです。

前執行部の尽力によって2014年度から（株）ガリレオ（事務局支局）への会員管理、会計業務等の委託が導入されており、第8期の事務局は支局との連携というプラットフォームの上で業務を担っていることとなります。そのコストの程は、今後も継続的に検証しすすんでいくことでしょうが、業務のさらなる一般化と業務負担からの解放を目指して導入されたこの委

託の恩恵に、本事務局は十分浴しているといえます。メールを取り交わす理事間に見られる親密なネットワークや淀みなくすすんでいく学会の諸活動、理事会において学会活動等の質の向上と改善のための提案や検討が速度感を持って常態的になされていく様等を見ておれば、委託の効果が学会運営の全体に波及していることも感じさせます。この委託に関しては、昨年度の学会総会で、学会業務外部委託業務費として学会特別積立金より支援金を予算収入に組み込むことが承認されました。これを大切な原資として、委託について今後も様々な検討を行っていきます。また、この度学会より叢書が刊行されることとなりましたが、本事務局はこうした新たな事業をはじめ、これまでの学会運営の流れを継承しながら、業務のさらなるブラッシュアップの可能性を検討するという性格を担われていると捉えています。例えば現在、会員への学会活動等に関する情報提供や案内の方法には、主に学会HP、学会通信、一斉配信メール等がありますが、これらのメディアの特性とよさを継承しつつ発信方法を柔軟に検討していきたいと考えています。

本事務局はいまそのスタートから1年半という折り返し地点にいます。今後ともよろしく願いいたします。

滋賀大会予告（第二次案内）

第40回美術科教育学会滋賀大会

大会実行委員長 新関伸也(滋賀大学)



近江八景 瀬田の唐橋 提供：(公社)びわこビジターズビューロー

■ 大会テーマ

「学習指導要領改訂と美術科教育のゆくえ

— 学会40年の歩みとこれからの課題 —

ごあいさつ

第40回美術科教育学会 滋賀大会を滋賀大学教育学部（滋賀県大津市）で開催いたします。今大会では研究発表、研究部会、総会に加え、大会テーマに基づく2つの講演と学習指導要領改訂及び学会の課題をとりあげたシンポジウムを企画しています。

多くの皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

第40回美術科教育学会滋賀大会：

<http://artedu-shiga.com>

■ 主催：美術科教育学会

協力：日本美術教育学会 大学美術教育学会

■ 会期：2018年3月29日（木）・30日（金）

■ 会場：滋賀大学教育学部

〒520-0862 滋賀県大津市平津2-5-1

■ 日程：

・理事会 2018年3月28日（水）

【滋賀大学大津サテライトプラザ】

※JR大津駅前 日本生命大津ビル4階

12:00～ 学会誌編集委員会

15:00～ 理事会 ※17:30 終了予定

・第1日目 2018年3月29日（木）

【滋賀大学教育学部研究棟（D棟）、大講義室】

● 日程

09:00～ 受付

09:45～ 研究発表Ⅰ

12:00～ 昼休み

13:00～ 開会式

13:05～ 講演Ⅰ

13:55～ 講演Ⅱ

14:50～ シンポジウム

16:30～ 研究部会交流会（7分科会）

18:00～ 懇親会（教育学部遊心館）※20:00 終了予定

・第2日目 2018年3月30日（金）

【滋賀大学教育学部研究棟（D棟）大講義室】

● 日程

09:00～ 受付

09:30～ 研究発表Ⅱ

11:50～ 総会

12:40～ 昼休み

13:40～ 研究発表Ⅲ ※16:00 終了予定

■ 講演Ⅰ

演題：「美術科教育学会の歴史的意義と課題（仮）」

講師：金子 一夫 氏（茨城大学特任教授）

■ 講演Ⅱ

演題：「学習指導要領改訂と美術教育（仮）」

講師：西野 範夫 氏（元 上越教育大学教授）

■ シンポジウム

演題：「学習指導要領改訂と美術科教育のゆくえ

— 学会40年の歩みとこれからの課題 —

シンポジスト：

・水島 尚喜 氏（聖心女子大学教授）

・奥村 高明 氏（聖徳大学教授）

・三澤 一実 氏（武蔵野美術大学教授）

司会：新関 伸也（滋賀大学教授）

■ 学会参加費、懇親会費など ※事前申込みがお得です

（1）学会参加費

参加費	事前申込	当日申込
正会員	4,500円	5,000円
非会員（大学院生を除く）	5,500円	6,000円
大学院生 （社会人を除く、正会員を含む）	2,500円	3,000円

※「大学美術教育学会」又は「日本美術教育学会」の会員の場合も本学会会員と同様に、正会員の料金で参加できます。その旨を、払込用紙の通信欄にご記入ください。

(2) 懇親会費

参加費	事前申込	当日申込
正会員・非会員	5,000円	5,500円
大学院生	3,500円	4,000円

(3) 昼食・弁当代 (※事前予約のみ受付)

大会1日目: 3月29日(木)	1,000円
大会2日目: 3月30日(金)	1,000円

※大学徒歩圏内には、レストラン・喫茶店等がありません。弁当のご注文をお勧めいたします。
※弁当注文以外の方は、昼食をご持参いただくことをお勧めいたします。

■ 参加登録・発表申込み

(1) 学会参加申し込み、研究発表申込み

事前参加申込み、研究発表を希望される方は、下記の要領をご確認頂き、**第40回美術科教育学会滋賀大会のホームページ** (<http://artedu-shiga.com/>) より、「**オンライン大会登録受付システム**」(<https://www.e-naf.jp/meeting/ENAF/artedu40/member>) からお申込みください。

2017年11月1日(水):

事前参加登録・演題登録の開始

※登録後、「参加登録受付メール」または「演題登録受付メール」が届きますのでご確認ください。

※「発表概要投稿用テンプレート」(Microsoft ワード文書)は滋賀大会HPよりダウンロードし、完成しましたら、**オンライン大会登録受付システムより、2018年1月18日までに**ご投稿願います。

※入金締切日までにご入金いただけない場合、事前参加登録は自動的にキャンセルされます。

※滋賀大会の発表申込及び事前参加申込については、「**オンライン大会登録受付システム**」を使って行いますが、**参加申込については当日でも可能です。**

(2) 申込締切

2018年1月18日(木) 24時

演題登録及び抄録原稿 締切

2018年2月28日(水) 24時

事前参加登録及び参加費 締切

申込期限・時間を過ぎるとオンラインシステムで登録は出来なくなります。余裕をもって、期限までに登録してください。不明な点があれば、大会システムサポートデスクまで、電話・メールにてご相談ください。

(3) オンライン登録システムに関する問い合わせ (※参加申込、発表申込、概要集について)

●中西印刷株式会社 第40回美術科教育学会
滋賀大会システムサポートデスク

Tel: 075-415-3661

E-mail: artedu40@nacos.com

(4) 大会に関する問い合わせ

●第40回美術科教育学会滋賀大会実行委員会
(事務局長) 村田 透

Tel: 077-537-7774 (研究室)

E-mail: artedu@edu.shiga-u.ac.jp

■ 研究発表について

(1) 発表資格

発表は、本学会会員(申込み時点で、当該年度までの会費を完納していること)に限ります。共同研究の場合は、筆頭発表者が会員であり、かつ会員でない者が発表者の半数を超えないことになっています。

詳細は、学会HP (<http://www.artedu.jp/>) の「美術科教育学会 大会発表規則 第3章」を参照のこと。

(2) 発表時間

30分(発表20分、質疑10分)

*発表の日時、会場については、ホームページでお知らせします。(2月中旬頃)

(3) 使用機器

発表に使用するパソコンは各自持ち込んでください。

*プロジェクターへの接続は、基本的にVGA(D-Sub)対応です。

*Mac, iPad等の接続は、VGA変換アダプターが必要ですので、各自ご持参ください。

*HDMIの接続の場合には、VGA変換のアダプターをご持参ください。

*上記のプロジェクター接続により、パワーポイント等で動画映像や音声を流すことも可能です。

(4) 年会費の納入

今年度までの年会費未納では発表できませんので必ず納入してください。会費納入状況は以下からログインし、確認することができます。

(<https://service.gakkai.ne.jp/society-member/auth/AAE>)

■ 滋賀大学教育学部までのアクセス

◆主要駅から最寄り駅(JR東海道線 石山駅)まで

○JR大阪駅から、新快速にて約45分。

○JR京都駅から、新快速にて約15分。

○JR名古屋駅から、京都駅まで新幹線にて移動の後、在来線に乗り換え。合計約70分。

○JR 金沢駅から、京都駅まで特急電車にて移動の後、在来線に乗り換え。合計約2時間40分。

◆最寄り駅 (JR 石山駅) から大学までバス移動。

※石山駅南口バスターミナル1番のりば

○京阪バス 52・53・54 番系統で約15分、「滋賀大西門」下車、徒歩すぐ。

- ▶52番系統：「新浜 (南郷中学校経由)」行、または「南郷二丁目東 (野々宮経由)」行。
- ▶53番系統：「南郷二丁目東 (千寿の郷経由)」行。
- ▶54番系統：「大石 (南郷中学校経由)」行。

○京阪バス 2・4 番系統で約10分、「滋賀大前」下車、徒歩7分。

- ▶2番系統：「新浜」行。
- ▶4番系統：「大石」行。

◆最寄り駅 (JR 石山駅) から大学までタクシー移動：所要時間約10分。

■ 宿泊に関して

ホテルは、大津市・草津市の JR 各駅周辺や京都市内に多数あります。

観光客の急増により、滋賀県大津市・草津市や京都市ではホテル予約が大変困難な状況です。

早めにご予約されることをお勧めいたします。

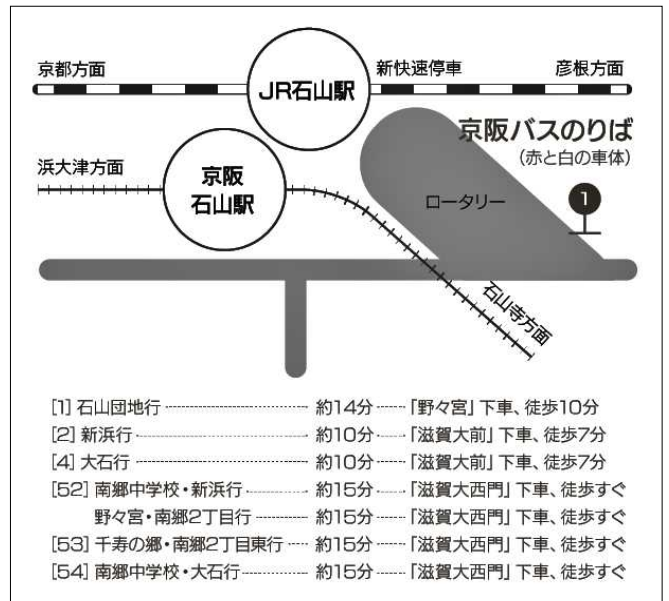
●主要駅から JR 石山駅までの所要時間



●JR 石山駅南口 京阪バスのりば

※バスターミナル「1番のりば」より乗車。

「滋賀大前」もしくは「滋賀大西門」にて下車。



●JR 石山駅～滋賀大学教育学部周辺地図



理事会報告

本部事務局 相田隆司(東京学芸大学)

2017年度第1回理事会は、2017年9月9日(土)13時より16時30分まで聖心女子大学2号館4階ワークショップルームにて開催された。開会に際し水島代表理事の挨拶があり、続いて相田副代表理事の進行で議事が進められた。なお、出席した理事、監事は合計19名、公務等で欠席の5名からは委任状の提出があり、理事会の成立条件は満たされていることが確認された。

【審議事項】

I 総務部関連

1. 第39回美術科教育学会静岡大会の収支決算報告

相田副代表理事より、第39回美術科教育学会静岡大会の収支決算報告がなされた。審議の結果、原案通り承認された。また、今後大会を補助する学生についてはアルバイトとして雇いあげることが確認された。

2. 第40回滋賀大会の実施計画案について

新関大会実行委員長より、第40回美術科教育学会滋賀大会の実施計画案について説明がなされた(2018年3月29日(木):大会第1日、3月30日(金):大会第2日)。審議の結果、原案通り承認された。

3. 新入会員及び退会者の承認について

西村理事より資料に基づき今年3月の理事会以降、8月22日(火)までに受理された入会申し込み者25名(再入会者1名を含む)について説明・提案がなされ、審議の結果入会が承認された。続いて資料に基づき、退会者6名について説明・提案がなされ、審議の結果退会が承認された。

4. 美術科教育学会叢書について

永守理事より今年度内の刊行を目指す叢書第1号の内容、出版形態、刊行費用等に関する美術教育学叢書企画編集委員会の論議ならびに検討結果等の概要が報告され、資料に基づき第1号の内容と執筆者が示された。また、今後刊行予定の第2号についても、金子理事よりその趣旨と検討中の内容、項目等について報告があった。審議の結果、叢書刊行に係る出版形態、費用検討等については引き続き叢書委員会に一任することが承認された。

5. その他 なし

II 研究部関連

1. 研究倫理綱領案について

新関理事より、資料に基づき美術科教育学会研究倫理綱領案が示された。個人をベースとする研究に関する内容と学会活動に関する内容をいかに網羅、精選するかをめぐって議論が交わされ、綱領の内容と今後のスケジュールにつき電子メール等も用いて検討を継続、審議することが確認された。

2. その他 なし

III 事業部関連 なし

IV その他 なし

【報告事項】

I 総務部関連

1. 会費納入状況について

西村理事より、資料に基づき現在の会費納入状況について報告がなされた(2017年度入金率78% 8月22日現在)。

2. 会費減額措置の申請状況について

西村理事より、資料に基づき会費減額申請(承認済み)の状況について報告がなされた。

3. 学会通信について

西村理事より学会通信第96号の頁構成と執筆担当者につき報告があり確認がなされた。また資料に基づき、学会通信作成に係る費用につき報告があり、媒体の在り方をめぐって検討を行うことが報告された。

4. J-STAGE について

上山理事より、J-STAGEへの移行が完了し既刊の学会誌(第4号~第36号)及び前身誌である大学美術教科教育研究会報告(第1号~第3号)が閲覧できる旨等の報告があり、第37号、第38号についても上山理事の尽力により、年度内を目安に閲覧可能となる予定である旨の報告があった。

5. その他

大泉理事より、既刊の学会叢書0号の会員への送付状況について報告があった。

II 研究部関連

1. 『美術教育学』第39号の投稿状況、査読・編集日程について

直江副代表理事より資料に基づき『美術教育学』第39号への投稿数、今後の日程、査読依頼等につき報告がなされた。

2. 第15回『美術教育学』賞の選考経過について

赤木理事より『美術教育学』賞の選考と選考委員選出等に関する経過についての報告があった。

3. その他 なし



第1回理事会（聖心女子大学）

III 事業部関連

1. 教育関連学会連絡協議会

奥村理事より3月18日（土）に開催された公開シンポジウム「教育研究分野における若手育成」の概要等について報告があった。

2. 実施済みリサーチフォーラムの報告と実施予定テーマについて

山木副代表理事より、8月27日（日）、藤原智也氏（愛知県立大学）がウインクあいち（愛知県産業労働センター）で開催したリサーチフォーラム、「『アートを通じた子どもの学びと地域社会との関わり』シンポジウム」の概要について報告があった。山崎亮教授（東北芸術工科大学）や愛知県内の教員らが登壇し、参加者約60名で他分野からも多くの参加者があり、活発に議論がなされたことが報告された。

また今後開催される予定のリサーチフォーラム「工芸が切り開く思考の未来」についても近日中にホームページで紹介する予定である旨の報告があった。

3. 学会ホームページのリサーチフォーラム関連情報の整備について

山木副代表理事より、会員等に向けたリサーチフォーラム関連の情報が整備されながら提供されてきた経緯等について資料を基に報告があった。今後の課題として理事の参加の促進、会員へのさらなる情報提供等があげられ、情報提供のための会員への一斉メールの積極的活用が確認された。

4. 芸術関連学会連合のシンポの開催について

山木理事より、長田理事が担当する芸術関連学会連合からの報告がなされた。

IV その他

藤江理事より、造形芸術教育協議会（三学会連携）の出版事業に係る進捗状況について報告があった。

（以上）

第 35 回 InSEA（国際美術教育学会）世界大会（大邱大会）報告

福本謹一（兵庫教育大学）

InSEA 大邱大会と韓国の美術教育に関する取り組み

今年8月7日より11日までの5日間韓国大邱広域市において第35回 InSEA（国際美術教育学会）World Congress が開催され、48カ国から1000人以上の参加者を得て成功裏に幕を閉じた。

韓国は美術教育に関する国際的な取り組みを近年積極的に行ってきた。2007年には InSEA アジア地区大会を4つの学会が共催の形でソウル大学で開催した。当初は二つのグループが競合して開催が危ぶまれたが、リサーチ・コンGRESSとジェネラル・コンファレンスを分け合うことで開催にこぎ着けた。2010年には、ユネスコ第2回芸術教育世界会議を開催し、その成果は、今後の芸術教育の方向性を見据えた指針であるソウル・アジェンダを採択しユネスコ加盟国の芸術教育の振興を要請するものとなった。このユネスコの芸術教育世界会議は、第1回世界会議をポルトガルのリスボンで開催したが、韓国の文化部（日本の文化庁は文部

科学省傘下にあるが、韓国では日本の文部科学省にあたる教育部と同格の行政機関である）が中心となり、第2回の世界会議を招致することを視野に入れて活動を開始し、2009年にユネスコ・バンコク支局における準備を経て開催の運びとなった。このソウルでの世界会議を契機に2011年の第36次ユネスコ総会において「世界文化芸術教育週間」を毎年の5月第4週に定めることにもつながった。このユネスコ会議には国際顧問として参加したが、我が国の場合、文化庁にユネスコ国内委員会が位置づけられていることもあって、積極的な参加が見送られた。しかし、芸術教育全体を含む国際的な取り組みの意義を考えれば美術教育の活性化を促す有用な機会とすることは重要であり、今後我が国もユネスコを視野に入れた活動が求められるのではないだろうか。ともかく、ユネスコ世界会議を土台にしながら、今回の InSEA World Congress については、韓国の7つの美術教育関連学会・団体が結集して、大



大邱市国際展示会議場(EXCO)

邱市の誇る EXCO（国際展示会議場）にて開催し、美術教育を喧伝する機会を提供した。

大会のテーマと運営について

今大会のテーマは、Spirit∞Art∞Digital であり、「デジタルな社会における美術教育の関わりは、表層的な教育方法やテクノロジーの問題にとどまらず、精神の在り様や人間性の問題に直結する。美術教育とデジタルの共存が紡ぎ出す物語は、新しい時代精神や美術教育の存続への確かな処方箋を創出する」という趣旨を反映するものであった。精神、美術、デジタルの間に埋め込まれた「∞」についての明確な説明はないものの、それぞれを連続的な階調でつなぐ循環的な関係性を意図し、その包括的なビジョンを構築することが美術教育の未来形成を促すという強いメッセージを含んでいると感じられた。

今大会で中心的な役割を担ったのは、韓国文化・美術教育研究学会の会長で京仁教育大学のジョンヒ・キム教授であり、6つの学会及び1研究グループの共催団体計7団体からなる InSEA2017WorldCongress 組織委員会を束ねた。ただし、韓国 InSEA (KoSEA) は共催団体には加わっていない。また、文化部の傘下にある韓国芸術文化教育協会 (KACES)、大邱市、韓国観光局、韓国国立研究財団、韓国教員免許組合等の10の公的機関からの協賛を取り付けている。

財政面のバックアップは、非公式発表ながら、大邱市の約550万円、韓国芸術文化教育協会400万円を含めて総額約1400万円を得ている。全体経費は、総額約3600万円であったが、InSEAへの協力金を600万円納付することにつなげている。この裏には、参加費を抑えながら、現職教員の参加を促すための国内向けの2日間のパッケージ料金の設定、運営業者委託による組織委員の事務負担軽減、招待者への経費抑制など効率的な運用を図ったことがうかがわれるが、韓国全体にサービス料金体系が我が国に比べ格安であることも運営面で利する部分があったと考えられる。

また InSEA にとっても新入会員の増加、協力金の確保等大きな成果につながったと言えるだろう。

研究発表の動向

研究発表は、490件を超え、日本からは基調講演2名、招待講演4名、一般発表48名、ポスターセッション6名、ワークショップ3名を含む参加者が70名を数えた。

筆者の開会初日の基調講演では、「Toward a Rational Perspectives for Art Education till 2030」と題して、資質・能力（コンピテンシー）に依拠したカリキュラム改革の国際的動向と日本の美術教育改革について考察した発表を行ったが、講演後にオランダ、ドイツ、フィンランド、香港等の参加者からもこうした改



一般発表風景

革動向の国際比較について詳細な情報を共有したいという申し出を受けた。

招待講演者を含む口頭発表の内容は、大会の趣旨を反映して以下のような項目に分類されていた。「多様性の導出」、「未来志向」、「芸術による人間性の育成」、「デジタルスペースに生きる」。これらの項目区分を細分化して口頭発表の内容を概観すれば、地域社会との連携（15%）、教育カリキュラム改革（10%）、教材開発（13%）、デジタル開発（10%）、心理・セラピー関連（11%）、鑑賞教育・美術館連携（17%）、表現論（18%）、リサーチ・メソッド（6%）などの関心を反映するものであった。（%表示は筆者の主観的分類に基づく）

美術教育の根幹をなす表現自体の今後の行く末を考察する「イメージと真摯にどう向き合うか」といったフランス人の基調講演などは、部屋のサイズが小さいこともあって立ち見も含めて一杯であった。今回の共催団体に韓国アートセラピー学会が含まれていることとも関係するが、「生涯学習の視点からのコラーージュ・アートセラピーによる自己開発」「韓国におけるアートセラピーの発展過程」などの発表があった。韓国の美術教育研究の特徴として、これらアートセラピーの視点やギフトッド・チルドレンに対する指導のあり方を視野に入れていることなどがある。

我が国の学習指導要領の軸は「社会に開かれた教育課程」であるが、「社会に関与する美術教育としてのコミュニティー参画型美術プロジェクト」など地域と連携する美術のあり方を検討するものも散見された。

韓国芸術文化教育協会 (KACES) がユネスコ世界会議で中核的な役割を果たしたのと同様に、協賛団体としてバックアップしたこともあり、伝統文化教育に関する発表等も奨励された。これと対照的に、デジタル部門に関しては、ユネスコの芸術教育世界大会の開会アトラクションも同様にデジタル技術とパフォーマンスを融合させるなど先進的なものであったが、今回の開会式のアトラクションでも韓国らしいCGやデジタル技術に基づく魅力的なインタラクティブなアートが見

られた。発表でも韓国での ICT 教育の積極的な取り組みをうかがわせるものが多くあった。ワークショップでは日本人による 3 件はいずれも好評で、特に「墨アート」は定員 50 人に対して希望者があふれる状況であり、スタッフが対応に追われたと聞いた。

発表内容に直接関係するものではないが、韓国の 6 つの学会が共催したこともあって、韓国の国内向けの発表も多くみられた。韓国語だけの発表を明示したものは、63 件あり、英語を母語としない国での大会ではこうした発表もやむを得ない。隣国我が国の発表者を増やす配慮から日本語による発表も可として、日本語の発表に通訳者をつけることも検討されたが、英語での発表希望者も多かったことから見送られたものの、日本語発表 7 件については、同じ部屋に配置された。

大会の成果と展望

今大会は、首都のソウルではなく、韓国 4 番目の人口規模の大邱市で開催されたが、会場が国際会議場ということもあり、学術研究の発表場所として設備的にも極めて優れた環境が提供された。また、北朝鮮と米国との政治的な駆け引きが暗い影を落とす中で韓国への渡航に不安を感じさせる状況であったにもかかわらず、研究発表が共催団体のものを含め 490 件超という近年では最大のものとなり（2002 年のニューヨーク大会、2008 年の大阪大会は、450 件弱）、美術教育の国際的な交流の推進を確かなものにしたと言えるだろう。

またアジア地区の国際交流（アジア美術教育会議など）を強化することがアジア諸国の InSEA 評議員間でも話題になったようであり、今後、アジアという枠組みも含めてグローバル化を視野に入れた形で美術教育を見直す必要があると同時に InSEA の目的の一つとしての世界平和を希求する方途を摸索することが時代状況として改めて求められていることを再認識した。

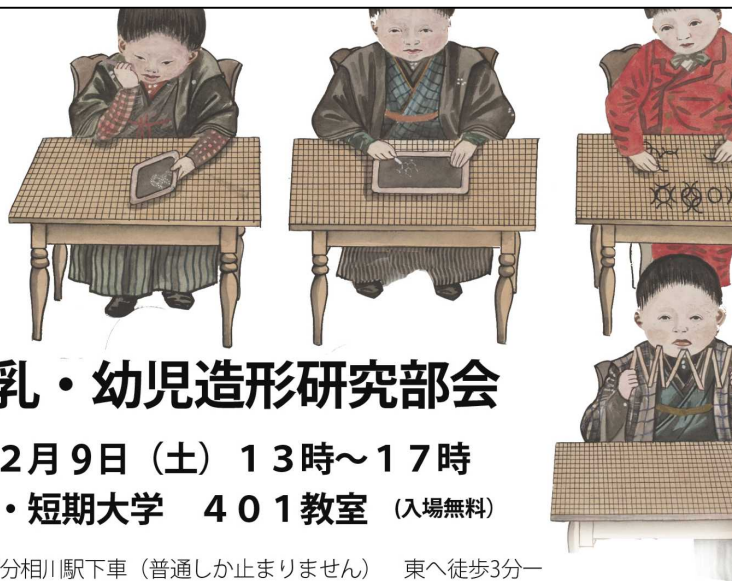
注）この原稿は、「教育美術」2017 年 12 月号に掲載予定のものに加筆修正したものである。



8月10日（木）のバンケットの様子



閉会式後の集合写真



美術科教育学会
平成29年度第1回 **乳・幼児造形研究部会**

日時 平成29年12月9日(土) 13時~17時

会場 大阪成蹊大学・短期大学 401教室 (入場無料)

— アクセス 梅田より阪急京都線で約17分相川駅下車(普通しか止まりません) 東へ徒歩3分—

温故知新

—歴史は知識ではない—

今回の部会は造形の歴史について考えます。歴史は決して過去の記録ではありません。歴史は現在に繋がる事柄であり未来を作る指標となるものです。今回は牧野先生をお迎えして会員でこれからの造形教育を考えようと思います。多数のご参加をお待ちしています。

プログラム 13:00~14:30 講演 幼児の造形表現 —歴史的観点から探る—

牧野 由理 (埼玉県立大学 准教授 / 美術教育学・美術教育史)

14:45~17:00 パネルディスカッション 歴史から考えるこれからの乳・幼児造形表現

牧野 由理 栗山 誠 塩見知利

(関西学院大学 准教授 予定) (大阪成蹊短期大学 教授)



問い合わせ 大阪成蹊短期大学教育第一研究室 塩見 紺谷 06-6829-2573

本部事務局より

■2017 会計年度までの会費納入はお済みですか。

「2017会計年度会費」は、2017年7月末日までに納入いただくようお願いしています。もし、未だの場合は、至急の納入をお願いします。3月の年次大会、リサーチフォーラム、地区会、学会誌刊行などの学会運営は、会員の皆様の会費により運営されています。

ご自分の各年度の年会費納入状況については、以下の「会員情報管理システム」にログインすることにより確認が可能です。

<https://service.gakkai.ne.jp/society-member/auth/AAE>

なお、納入状況に疑問がある場合には、下記本部事務局支局アドレスにお問い合わせ下さい。

会費納入に関するお問い合わせ先：

(株) ガリレオ 東京オフィス 担当者 和久津君子
[窓口アドレス]g030aae-mng@ml.gakkai.ne.jp

注意事項

学会誌への投稿並びに年次大会での口頭発表に際しては、投稿や申込みの時点で以下の2つの条件を満たしている必要があります。

①会員登録をしていること

②当該年度までの年会費を全て納入済みであること

毎年、学会誌への投稿締め切りは、毎年8月下旬、大会での口頭発表申込み開始は、11月初頭の予定です。十分にご注意下さい。

*会費を2年間滞納した場合は、会員資格を失います。

■会費振り込み口座名、番号

2月の学会通信に同封の振込用紙、郵便局にある払込用紙または銀行等からの振替により下記の口座に納入してください。

銀行名：ゆうちょ銀行

口座記号番号：00140-9-551193

口座名称：美術科教育学会 本部事務局支局

通信欄には、「2017会計年度会費」等、会費の年度および会員ID番号を記入してください。また、ゆうちょ銀行以外の銀行からの振込の受取口座として利用される場合は下記内容を指定してください。

店名(店番)：〇一九(ゼロイチキユウ)店(019)

預金種目：当座

口座番号：0551193

■大学院生等への会費減額措置(申請は毎年必要)

大学院生等は、所定の手続きにより、年会費を半額(4,000円)に減額する措置を受けることができます。会費減額措置を希望する大学院生等は、毎年、5月中に各自、申請手続きをすることになっています。申請しない場合は、減額措置を受けられません。未だ手続きがお済みでない方は、学会ウェブサイトをご参照ください。 http://www.artedu.jp/bbg4umOdy-8/#_8

なお、本制度は、大学院生等に対する経済的な支援を目的として設けられています。指導教員の先生は、申請者が以下のいずれかに該当するか確認の上、申請させて下さい。

1 常勤職を持たない「大学院生又は大学院研究生」である。

2、勤務先を持つが、当該会計年度の間、無給の「大学院生又は大学院研究生」である。

■学会通信(西村・笠原)

年3回の刊行(6月、10月、2月頃)を予定しています。原稿締切は発行日のおよそ1か月前です。紙面には、学会からのお知らせのほか、会員の皆様からの原稿を随時掲載します。

■ウェブ(上山・大泉)

学会ウェブサイト<http://artedu.jp>には、随時、学会からのお知らせを掲載しています。研究会の開催告知等の掲載を希望される場合は、本部事務局(上山・大泉)までお知らせください。

■「一斉配信メール」(大泉)

発行時期の関係で年3回の学会通信ではカバーできない案内をお伝えしていきます。一斉配信メールは、状況に合わせて柔軟に配信するため、固定的な日程ではありませんが、3月頃、5月頃、8月頃、12月頃を予定しています。

■住所・所属等変更、退会手続き

住所、所属先等に変更のあった方は、すみやかに学会本部事務局 支局までご連絡ください。退会を希望される場合は、電子メールではなく、必ず文書(退会希望日を明記してください)を郵送にてお送りください。あわせて、在籍最終年度までの会費納入完了をお願いします。

美術科教育学会 本部事務局 支局

〒170-0002 豊島区巢鴨1-24-1 第2ユニオンビル4階

(株)ガリレオ 東京オフィス 担当者 和久津 君子

[窓口アドレス]g030aae-mng@ml.gakkai.ne.jp

■新入会員

2017年3月27日(月)以降、8月22日(火)までの入会申込書が受理され、9月9日の理事会で入会が承認された方は下記の通りです。(受付順) 浅場正宏、橋本侑佳、中村儒纏、佐々木奏美、秋山道広、松本美里、中村賢太、大杉健、松浦藍、福岡正臣、松井素子、重野裕美、飯田真人、山成美穂、久保田美和、横田朋子、平向功一、劉栓栓、安里知陽、高間準、戸室鉄平、中原篤徳、半田こづえ、大平修也、辻誠。

■「オンライン名簿(検索)システム」

学会HP(<http://www.artedu.jp>)左のメニュー「会員名簿」をクリックして「名簿(検索)システム」

https://service.gakkai.ne.jp/society-member/auth/member_search/AAEにお入り下さい。公開項目は、もちろん各会員が決定できますが、会員相互の交流のために、所属先住所、メールアドレスなど可能な範囲での登録をお願いします。

美術科教育学会 本部事務局

- 聖心女子大学 〒150-8938 東京都渋谷区広尾 4-3-1 聖心女子大学文学部
水島尚喜(代表理事) mizusima@u-sacred-heart.ac.jp TEL 03-3407-5811
- 東京学芸大学 〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1 東京学芸大学 芸術・スポーツ科学系
相田隆司(総務担当副代表理事/本部事務局長/庶務・会計・規約) t-aida@u-gakugei.ac.jp TEL 042-329-7594
西村德行(学会通信・学会名簿・会費管理) nishimur@u-gakugei.ac.jp TEL 042-329-7608
笠原広一(本部事務局運営委員/学会通信) kasahara@u-gakugei.ac.jp TEL 042-329-7610
- 横浜国立大学 〒240-8502 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79-2 横浜国立大学教育学部
大泉義一(ウェブ・メール配信) oizumi@ynu.ac.jp TEL045-339-3453
- 三重大学 〒514-8507 三重県津市栗真町屋町1577 三重大学教育学部
上山 浩(ウェブ・J-Stage) ueyama@edu.mie-u.ac.jp TEL 059-231-9280

美術科教育学会 本部事務局 支局

- (株) ガリレオ(www.galileo.co.jp) 東京オフィス 〒170-0002 豊島区巢鴨1-24-1 第2 ユニオンビル4 階
(担当者 和久津君子氏) TEL: 03-5981-9824 FAX: 03-5981-9852